ありがとう、世界に誇れる東京水

お茶の水女子大学附属中学校三年梅組

畠山 見穀（はたけやま こうき）

私は、五歳から八歳までバミューダ諸島という大西洋にある島に住んだ経験がある。海に囲まれて、川も湖もない小さな島国だ。この島の人々にとって水は、とても大切で貴重な資源であり、生活用水のすべてにおいて雨水に依存している。雨水を貯めるために、島の家々の屋根は、雨水を通して、地下の貯水タンクに集められる仕組みになっている。

そのため、私の家では月ニクの水量を毎日チェックし、日々無駄遣いしないよう心掛け、雨が降らない日が続いた時は、お風呂ではなく、シャワーを浴びるようにしていた。また、タンクの水はそのまま飲むことは出来ない。家庭用の浄水器を通して、水を沸かすという過程を経て、初めて飲めるようになる。私はまだ幼かったが、この島での生活を通してどんなに水が大切であるかを知らされた。

日本の水事情は、どうだろうか。私達は、何も考えなくても蛇口をひねれば当たり前のように水が出てくる。好きな時にお風呂に入り、洗濯物や皿洗いにも数十リットルの水を使っている。私は日本に帰国して、水の残量を気にすることなく、水を使える生活に驚きを感じたと同時に、東京の水道水を飲んでみて、本当に美味しいと思った。ペットボトルに入っているミネラルウォーターと区別がつかないほどだ。こんなに安心して常時水道水を飲んで、何不自由なく水を使える日本は、恵まれていて幸せだと思った。

そして中学二年生の時、私は、東京都の「水の科学館」に訪れる機会があった。さらに私は、東京都の水道水が家庭の蛇口まで届くプロセスを初めて学んだ。水道水の元となる水源は、河川水や近隣のダムの貯留水である。こういった水源施設の数々が、安定した水源の確保を可能としている。川やダムから採水した水は、取水施設を通った後、浄水場

へと運ばれる。浄水場では綺麗な飲み水にするため、沈殿、ろ過、消毒という三段階の処理が行われる。そして、水道法に基づいた厳しい水質基準をクリアした水道水は、給水所へ送られ、最終的に各家庭の蛇口へと流れている。世界においても安心で、美味しい水と言われている東京水は、このようにして私達の元へと届けられている。

私は、このプロセスを知り、日本の水道技術は、世界でもトップレベルであると思った。

バミューダ諸島の生活に立ち返ってみると、水源施設はもちろん、高度な浄水処理施設はなかったため、自分達が消費する水は、自分達で確保することが求められた。むしろ日本のように水道設備が整えられている国の方が珍しいのではないか。実際、世界で水道水が飲める国は、たったの十五カ国しかない。水の科学館で私達が何不自由なく水を使い、安心して飲むことができるのは、私達の見えないところで日々一生懸命働き、きめ細やかな

管理をして下さる水道局の人々のお陰である
ことに気付いた。美味しく綺麗な東京水が常
に供給される。この環境は、多くの人の手が加
わってこそ成り立っているのだ。

私達が毎日使っている東京水は、あまりに
も身近で当たり前であるばかりに、その大切
さや有り難みを忘れがちではないだろうか。
私が水の科学館をきっかけに、水に困ること
のない生活の豊かさを痛感したように、一度
立ち止まって、一人一人に改めて考えてもら
いたい。水道水の元となる水は、どこから来
ているのか。どのような工程を経て処理され
ているのか。私達のライフラインである水道
水のことを多くの人が知ることで、東京水の
美味しさや安全性だけでなく、水の大切さや
節水への意識を再認識できると思う。私達が
蛇口をひねれば出てくる「東京水」。日々何
気なく使い、生活の一部となっている東京水
の背景には、たくさんの貢献とたゆまぬ努力
がある。常に感謝の気持ちを忘れず、これが

らも東京水を大切にしていきたい。

20×20